

報 告

要支援・要介護高齢者の楽しみに関する研究

A study of pleasure for frail elderly

三好理恵¹⁾, 浅川典子¹⁾, 橋本志麻子¹⁾, 高橋龍太郎²⁾, 須田木綿子³⁾,
西村昌記⁴⁾, 出雲祐二⁵⁾

Rie Miyoshi, Noriko Asakawa, Shimako Hashimoto, Ryutaro Takahashi, Yuko Suda
Masanori Nishimura, Yuji Izumo

キーワード：楽しみ 要支援・要介護高齢者 介護保険

Key words : pleasure, frail elderly, long-term care insurance

要 旨

介護が必要となった高齢期をどのように過ごすかは高齢者にとって大きな課題であるが、介護が必要な高齢者の楽しみについての報告は少ない。本研究では要支援・要介護高齢者の楽しみについて、東京都葛飾区と秋田県大館市・田代町で要介護認定を受けた高齢者に行った訪問面接によるアンケート調査をもとに検討した。自由記述項目「この1年間で楽しかったこと」に回答の得られた758名（葛飾区469名、大館市289名）の記述を分析した。その結果、20のサブカテゴリからなる4つのカテゴリ【「家族との交流を通して」の楽しみ】【「友人との交流を通して」の楽しみ】【「介護保険サービスの利用を通して」の楽しみ】【「日常の中の出来事や暮らしそのもの」に関する楽しみ】が見出された。

I. はじめに

高齢者人口は増加傾向にあり、平成20年10月の調査で65歳以上の高齢者人口は過去最高の2822万人、総人口に占める割合は22.1%となり、5人に1人が高齢者という時代を迎えた（内閣府, 2009）。65歳時の平均余命はおよそ20年といわれ、高齢期の期間は長期化してきている。介護保険制度における要支援・要介護者と認定された第1号被保険者は平成19年度末で438万人を超え急速に増加しており（内閣府, 2009）、今後高齢者人口の増加に伴って要介護高齢者も増加すると予測されている。

しかし高齢者といっても心身の能力には個人差があり、高齢期の過ごし方は高齢者一人一人によって異なると考えられる。こうした時間をいかに過ごすかは高齢者

の心身の健康状態にも影響を与えられ、一般に退職後の生活は社会との人間関係や経済の縮小化をきたすといわれている（井上ら, 2000）が、要介護状態にある高齢者はさらにその縮小化が進むと考えられる。また約6割の高齢者が地域行事・スポーツなどのグループ活動に参加しており（内閣府, 2009）、高齢期を余生ととらえるのではなく、自分らしく楽しく過ごすための時間としてとらえている高齢者も多いと考えられる。高齢者にとって高齢期を過ごすうえで、楽しみを感じられることは大切なことだと考えられる。

健康な高齢者については自由な時間の楽しみとしての余暇活動（菊池, 2009）の報告や、生活スタイル（金田ら, 2000）について報告されているものはあるが、介護が必要な高齢者についてのそのようなことを明らか

受付日：2009年9月30日 受理日：2010年2月16日

1) 埼玉医科大学保健医療学部看護学科 2) 東京都健康長寿医療センター 3) 東洋大学
4) 東海大学 5) 秋田看護福祉大学

にしている報告はわずかである。介護が必要となった高齢期をどのように過ごすかは高齢者にとって大きな課題であるとともに、要支援・要介護高齢者にとって日々の生活の中でどのようなことに楽しみを見出しているのかを把握することは重要である。本研究では要支援・要介護高齢者がどのようなことに楽しみを感じているのかを検討することを目的とした。

II. 研究方法

1. 調査対象と方法：東京都葛飾区（以下、葛飾区とする）と秋田県大館市・田代町（以下、大館市とする）に在住の65歳以上の要介護認定を受けた高齢者を対象として2003年5月に行った在宅介護に関する訪問面接によるアンケート調査（有効回答1085名：葛飾区695名、大館市390名）の「この1年間で楽しかったことを教えてください」という設問の自由記述項目に回答があった799名（葛飾区502名、大館市297名）を分析の対象とした。

2. 分析方法：「この1年間で楽しかったこと」についての記述内容を精読し、楽しいことはないとの記述や記述内容の意味が読み取れないものを除外した758名（葛飾区469名、大館市289名）の記述について、一つの意味のまとまりごとに区切り分析単位とした。記述を意味内容のまとまり毎に分けコード化した。そのコード化した項目を意味の類似性に基づいてサブカテゴリとしてまとめ、サブカテゴリ間で類似する内容をもつものをカテゴリとしてまとめた。この分析過程において内容が適切であるかを研究者間で検討を重ね、信頼性・妥当性の確保に努めた。

3. 倫理的配慮：訪問調査にあたっては、事前に調査の協力依頼を行い同意の得られた者に調査を行った。調査においては協力に同意しなくても不利益にならないこと、得られたデータについては回答者が特定できないよう処理することを伝え協力依頼を行った。

III. 結果

1. 要支援・要介護高齢者の楽しみの内容

分析対象とした要支援・要介護高齢者は758名（葛飾区469名、大館市289名）であり、その内訳は男性237名、女性521名、平均年齢は79.4±7.9歳であった。758名から得られた記述は936件（葛飾区593件、大館市343件）であった。それらの記述内容から【「家族との交流を通して」の楽しみ】【「友人との交流を通して」の楽しみ】【「介護保険サービスの利用を通して」の楽しみ】【「日常の中の出来事や暮らしそのもの」に関する楽しみ】の4つのカテゴリが見出された。

各カテゴリとそれを構成するサブカテゴリに含まれる項目について表1～4に示した。以下に、それぞれのカテゴリを構成するサブカテゴリとそれらに含まれている項目について述べる。なお、カテゴリは【 】, サブカテゴリは『 』, 項目は「 」で示す。

1) 【「家族との交流を通して」の楽しみ】

【「家族との交流を通して」の楽しみ】には、表1に示したように6つのサブカテゴリが含まれていた。『離れている家族と会えること』には「孫が来て話をした」「子どもが来てくれた」「子どもの家族が来て話をした」「ひ孫が来てくれた」「兄弟が会いに来てくれた」などがあり、孫やひ孫のような離れて暮らす家族や、自分自身の兄弟などと会うことが楽しみとして記述に含まれていた。

『家族と旅行すること』には「一家で旅行した」「子どもと旅行に行った」などがあり、「一家で」や「子ども」というように、自分と家族が共に旅行したことが含まれていた。

『家族と出かけること』は「花見に連れて行ってくれた」「公園や近くの名所に行った」「食事に行った」「芝居や音楽会に行った」などであり、家族とともに出かけたことが記述されており、出かけた場所として多様な場所が含まれていた。

『大事にされていると感じること』には「誕生日にみんなでお祝いしてくれた」「母の日にプレゼントをもらった」「他の行事にお祝いしてくれた」などがあり、記念日等に特別にお祝いされたりプレゼントをもらったことが含まれていた。

『家族との生活そのもの』には「優しく声をかけてくれた」「家族が揃って食事をしたとき」などがあり、家族と共に過ごす日常生活に関する出来事や暮らしのありようが含まれていた。

『家族の成長を見守ること』に含まれるものは「孫の成長」「ひ孫が生まれた」「子どもが賞を取ったり出世したりした」「姪や甥の結婚が決まった」などであり、家族や親族の誕生、進学、結婚といった、成長の様子やおめでたい出来事に関する記述が含まれていた。

2) 【「友人との交流を通して」の楽しみ】

【「友人との交流を通して」の楽しみ】には、表2に示したように4つのサブカテゴリが含まれていた。『友人や知人と会って話をすること』には「友達と会って話をした」「入院などで知り合った人と会った」「近所の人や老人会の人と会って話をした」などがあり、友人の中でも近所や老人会、入院先で知り合った人などさまざまな人間関係についての記述が含まれていた。

『特別な集いに参加すること』には「同窓会に出席した」「勤めていた会社の仲間との集まりがあった」など

表1 「家族との交流を通して」の楽しみ

サブカテゴリ	項目	葛飾区				大館市		
		全体 (N=758)	全体 (N=469)	一人暮らし (N=151)	同居者あり (N=318)	全体 (N=289)	一人暮らし (N=86)	同居者あり (N=203)
離れている家族と会えること		146	70	20	50	76	21	55
	孫が来て話した	54	25	4	21	29	5	24
	子供が来てくれた	29	12	4	8	17	8	9
	子供の家族が来て話した	29	13	5	8	16	4	12
	姪や親族が来て話した	14	9	4	5	5	2	3
	ひ孫が来てくれた	11	4	-	4	7	1	6
	兄弟が会いに来てくれた	9	7	3	4	2	1	1
家族の成長を見守ること		69	47	16	31	22	10	12
	孫の成長	39	26	9	17	13	4	9
	ひ孫が生まれた	15	11	4	7	4	1	3
	子供が賞をとったり出世したりした	7	5	2	3	2	2	-
	姪や甥の結婚が決まった	4	2	1	1	2	2	-
	その他	4	3	-	3	1	1	-
家族と旅行すること		62	50	12	38	12	3	9
	一家で旅行した	28	24	2	22	4	-	4
	子供と旅行に行った	13	13	7	6	-	-	-
	夫婦で旅行に行った	12	9	-	9	3	-	3
	兄弟や姉妹と旅行に行った	8	3	2	1	5	3	2
	親類と旅行に行った	1	1	1	-	-	-	-
家族との生活そのもの		48	31	10	21	17	3	14
	優しく声をかけてくれた	21	15	7	8	6	1	5
	家族が揃って食事をするとき	7	4	-	4	3	-	3
	暮らし(暮らしていた)そのもの	6	4	1	3	2	1	1
	散歩に行った	6	4	1	3	2	-	2
	家族が健康であったこと	6	3	1	2	3	-	3
	その他	2	1	-	1	1	1	-
家族と出かけること		46	31	12	19	15	5	10
	花見に連れて行ってくれた	9	4	2	2	5	2	3
	公園や近くの名所に行った	8	8	3	5	-	-	-
	食事に行った	5	4	1	3	1	-	1
	芝居や音楽会に行った	4	4	-	4	-	-	-
	ドライブに行った	4	2	1	1	2	1	1
	家族と一緒に出かけたことそのもの	3	2	1	1	1	-	1
	温泉に行った	3	1	1	-	2	1	1
	身内の家に行った	2	1	1	-	1	1	-
	お墓参りに行った	2	2	1	1	-	-	-
	その他	6	3	1	2	3	-	3
大事にされていると感じること		41	30	11	19	11	5	6
	誕生日にみんなでお祝いしてくれた	15	10	2	8	5	1	4
	母の日にプレゼントをもらった	13	12	7	5	1	-	1
	他の行事にお祝いしてくれた	11	6	1	5	5	4	1
	その他	2	2	1	1	-	-	-
	計	412	259	81	178	153	47	106

※表中の数字は記述件数を示す

があり、学校時代や職場といった昔同じ時を過ごした人との再会や交流についての記述が含まれていた。

『友人と旅行をすること』には「友人と旅行をした」「老人会で旅行に行った」「勤めていた会社の仲間と旅行に行った」などがあり、老人会のような地域のつながり、同じ職場だった仲間のような仕事関係の友人についての

記述が含まれていた。

『友人と出かけること』には「花見や公園に行った」「友人とともに出かけたことそのもの」「食事に行った」などがあり、花見や公園に行ったり、外で会うことや食事をすることなど、日常生活の中の出来事で、いつもとは少し違う過ごし方をしたことが含まれていた。

表2 「友人との交流を通して」の楽しみ

サブカテゴリ	項目	葛飾区				大館市		
		全体 (N=758)	全体 (N=469)	一人暮らし (N=151)	同居者あり (N=318)	全体 (N=289)	一人暮らし (N=86)	同居者あり (N=203)
友人や知人と会って話をすること	友人や知人と会って話をすること	73	41	12	29	32	13	19
	友達と会って話をした	32	16	6	10	16	8	8
	入院した時に知り合った人と会った	22	13	3	10	9	3	6
	近所の人や老人会の人と話した	19	12	3	9	7	2	5
友人と旅行すること	友人と旅行すること	24	17	6	11	7	2	5
	友人と旅行に行った	8	8	4	4	-	-	-
	老人会で旅行に行った	8	3	1	2	5	2	3
	勤めていた会社の仲間と旅行に行った	2	2	-	2	-	-	-
その他	6	4	1	3	2	-	2	
友人と出かけること	友人と出かけること	17	13	7	6	4	2	2
	花見や公園に行った	5	3	1	2	2	2	-
	友人とともに出かけたことそのもの	4	3	2	1	1	-	1
	食事に行った	4	3	1	2	1	-	1
その他	4	4	3	1	-	-	-	
特別な集いに参加すること	特別な集いに参加すること	16	14	6	8	2	-	2
	同窓会に参加した	10	8	3	5	2	-	2
	勤めていた会社の仲間との集まりがあった	4	4	2	2	-	-	-
	その他	2	2	1	1	-	-	-
計	130	85	31	54	45	17	28	

※表中の数字は記述件数を示す

3) 【「介護保険サービスの利用を通して」の楽しみ】

【「介護保険サービスの利用を通して」の楽しみ】には、表3に示したように4つのサブカテゴリが含まれていた。『サービスを通して人と話をすること』には「デイサービスで皆さんと会って話をした」「ヘルパーさんと話をした」などがあり、介護保険サービスを通じて会う人達と会話をすることが含まれていた。

『サービスを通して外に出かけること』には「デイサービスの人と花見に行った」「ヘルパーさんと散歩をした」

「デイサービスの人と外に出かけた」などがあり介護保険サービスを利用して外へ出かけたことについての記述が含まれていた。

『デイサービスに行くこと』は「デイサービスに行くこと」からなり、デイサービスに参加することそのものについての記述であった。『デイサービスで身体を動かすこと』には「デイサービスで身体を動かす」というように、デイサービスで行われている体操やレクリエーションに参加することが含まれていた。

表3「介護保険サービスの利用を通して」の楽しみ

サブカテゴリ	項目	葛飾区				大館市		
		全体 (N=758)	全体 (N=469)	一人暮らし (N=151)	同居者あり (N=318)	全体 (N=289)	一人暮らし (N=86)	同居者あり (N=203)
サービスを通して人と話をすること	サービスを通して人と話をすること	59	27	11	16	32	9	23
	デイサービスで皆さんと会って話した	51	21	6	15	30	8	22
	ヘルパーさんと話をした	7	5	5	-	2	1	1
	その他	1	1	-	1	-	-	-
デイサービスに行くこと	デイサービスに行くこと	31	12	2	10	19	5	14
	デイサービスに行くこと	31	12	2	10	19	5	14
サービスを通して外に出かけること	サービスを通して外に出かけること	20	11	4	7	9	3	6
	デイサービスの人と花見に行った	12	8	3	5	4	2	2
	デイサービスの人と外に出かけた	3	-	-	-	3	1	2
	ヘルパーさんと散歩した	2	2	1	1	-	-	-
	デイサービスの人と外食したこと	1	-	-	-	1	-	1
その他	2	1	-	1	1	-	1	
デイサービスで身体を動かすこと	デイサービスで身体を動かすこと	11	8	3	5	3	1	2
	デイサービスで身体を動かすこと	11	8	3	5	3	1	2
計	121	58	20	38	63	18	45	

※表中の数字は記述件数を示す

表4 「日常の中の出来事や暮らしそのもの」に関する楽しみ

サブカテゴリ	項目	葛飾区				大館市		
		全体 (N=758)	全体 (N=469)	一人暮らし (N=151)	同居者あり (N=318)	全体 (N=289)	一人暮らし (N=86)	同居者あり (N=203)
外へ出かけること		105	78	20	58	27	6	21
	旅行に行った	39	32	7	25	7	1	6
	花見に行った	13	8	3	5	5	-	5
	芝居やスポーツを見に行ったり音楽会に行った	13	13	6	7	-	-	-
	温泉に行った	8	4	1	3	4	1	3
	散歩をすること	5	4	-	4	1	-	1
	外出することそのもの	4	3	-	3	1	-	1
	お祭りに行った	4	-	-	-	4	3	1
	近くの名所に行った	3	3	-	3	-	-	-
	神社へお参りに行った	3	3	-	3	-	-	-
	墓参りに行った	3	3	1	2	-	-	-
	ドライブに行った	1	-	-	-	1	-	1
	その他	9	5	2	3	4	1	3
趣味を行うこと		43	31	11	20	12	2	10
	テレビやラジオの視聴	16	12	4	8	4	-	4
	カラオケをする	9	8	3	5	1	-	1
	スポーツを見る	3	1	1	-	2	-	2
	小説を読んだり文章を書いたりする	2	2	1	1	-	-	-
	週に1回のダンスをする	2	1	-	1	1	-	1
	俳句を読む	1	1	1	-	-	-	-
	パズルをする	1	1	-	1	-	-	-
	陶芸教室に通う	1	-	-	-	1	-	1
	インターネットをする	1	1	-	1	-	-	-
	箱庭を作る	1	1	-	1	-	-	-
	謡の教室に通う	1	1	-	1	-	-	-
	絵を書く	1	-	-	-	1	-	1
	週3回のゲートボール	1	1	1	-	-	-	-
	その他	3	1	-	1	2	2	-
健康状態が安定していること		41	29	9	20	12	5	7
	具合が前より良くなったこと	16	10	3	7	6	3	3
	退院したとき	11	10	3	7	1	-	1
	病気をせずに過ごせたこと	9	6	1	5	3	1	2
	その他	5	3	2	1	2	1	1
日々の営みそのもの		38	24	5	19	14	3	11
	毎日が楽しい	23	15	2	13	8	2	6
	何事もなく穏やかに暮す	9	8	3	5	1	1	-
	食べること・お風呂に入ること	5	-	-	-	5	-	5
	その他	1	1	-	1	-	-	-
何かを成し遂げたと感じる		25	18	7	11	7	3	4
	コンクールで賞を取ったりした	5	4	4	-	1	1	-
	大会や発表会に出た	4	2	1	1	2	1	1
	舞台上で歌を披露した	4	3	-	3	1	-	1
	作品を出品した	3	2	-	2	1	-	1
	生徒や弟子に指導した	3	3	1	2	-	-	-
	その他	6	4	1	3	2	1	1
季節のうつろいを感じる		21	11	5	6	10	3	7
	花などを眺めたり飾った	11	8	4	4	3	-	3
	花などを育てる	9	3	1	2	6	2	4
	その他	1	-	-	-	1	1	-
計		273	191	57	134	82	22	60

※表中の数字は記述件数を示す

4)【「日常の中の出来事や暮らしそのもの」に関する楽しみ】

【「日常の中の出来事や暮らしそのもの」に関する楽しみ】には、表4に示したように6つのサブカテゴリが含まれていた。日常的な出来事を表す『外へ出かけること』『趣味を行うこと』『何かを成し遂げたと感じる』と暮らしのあり様を表す『健康状態が安定していること』『日々の営みそのもの』『季節のうつろいを感じる』であった。『外へ出かけること』は「旅行に行った」「花見に行った」「芝居やスポーツを見に行ったり音楽会に行った」「温泉に行った」「神社へお参りに行った」「墓参りに行った」など日常生活における外出などが含まれている。その外出先は様々であり記述数は少ないものの、神社へ参拝することや墓参りに行くことなど、先祖を大事にするということも含まれていた。

『趣味を行うこと』は記述内容が多様であり「テレビやラジオの視聴」「カラオケをする」などを含めて多種多様な内容が含まれていた。

『何かを成し遂げたと感じる』には「コンクールで賞を取ったりした」「大会や発表に出た」「生徒や弟子に指導した」などがあり、高齢者自身や関係する人が、特別な何かを達成できたりしたことが含まれていた。

『健康状態が安定している』には「前より具合が良くなった」や「退院した時」というように、体調が以前に比べると改善したと感じられることや「病気をせずに過ごした」という高齢者自身にとってよい状態を維持することができていることが含まれていた。

『日々の営みそのもの』には「毎日が楽しい」「何事もなく穏やかに暮らす」などがあり、生きている毎日を感じることもそのものや、無事に生活できていることが含まれていた。

『季節のうつろいを感じる』には「花などを眺めたり飾った」「花などを育てる」などの、日々の生活の中で自然や植物を楽しむことに関することが含まれていた。

2. 地域・生活形態による高齢者の楽しみの傾向

表には高齢者全体の記述の傾向を示した上で、高齢者を地域別、さらに生活形態（一人暮らし・同居者あり）別の記述の傾向を示している。

葛飾区の一人暮らし者151名から189件、同居者がいる者318名から404件の記述が得られ、大館市の一人暮らし者86名から104件、同居者がいる者203名から239件の記述が得られた。

記述から傾向をみてみると葛飾区と大館市の記述内容の全体的な傾向はほぼ同様であったが、葛飾区は大館市よりも【「日常の中の出来事や暮らしそのもの」に関する楽しみ】に含まれる『外へ出かけること』『趣味を行うこと』について多くの内容の記述があった。葛飾区

では外出先として多くの場所があげられており、趣味として行っていることにも多様な内容が含まれていた。また、葛飾区では『友人と旅行すること』として友人や老人会、勤めていた会社の仲間などと一緒に旅行したことの記述がみられるが、大館市ではあまりみられない。なお、一人暮らしの者と同居者がいる者の記述内容については、その傾向に大きな異なりはなかった。

IV. 考察

本研究の結果、要支援・要介護高齢者の楽しみは【「家族との交流を通して」の楽しみ】【「友人との交流を通して」の楽しみ】【「介護保険サービスの利用を通して」の楽しみ】【「日常の中の出来事や暮らしそのもの」に関する楽しみ】から構成されていることが明らかになった。池田ら（1997）の調査では、老年期の楽しみを人間関係の視点から「家族との楽しみ」「友人との楽しみ」「1人での楽しみ」「その他」に分類している。本研究で見出された【「家族との交流を通して」の楽しみ】は、池田ら（1997）の「家族との楽しみ」に相当すると考えられるが、本研究では池田らの内容に加えて、『大事にされていると感じること』があった。それらの内容は誕生日や母の日などの記念日や特別な時を祝ってもらったものである。高齢者が主役になれる特別な行事を大切なこととして受け止めていることがわかる。

【「友人との交流を通して」の楽しみ】は池田らの「友人との楽しみ」に相当すると考えられる。本研究では池田らが示した楽しみの内容に加えて、『特別な集いに参加すること』が見出された。働いていた頃の仲間や学校時代の友人との交流は高齢者にとって特別な意義があると思われる。

本研究においては【「日常の中の出来事や暮らしそのもの」に関する楽しみ】というカテゴリを見出した。池田らの結果の「1人での楽しみ」と「その他」とはカテゴリ名は異なるが、『外へ出かけること』『趣味を行うこと』『何かを成し遂げたと感じる』という内容には共通するものも多いと考えられる。

【「日常の中の出来事や暮らしそのもの」に関する楽しみ】には池田らの内容には示されていない『健康状態が安定していること』『日々の営みそのもの』『季節のうつろいを感じる』が含まれていた。これは、本研究が要支援・要介護高齢者を対象としているために見出された特徴であると考えられる。高齢者にとって「健康」とは必ずしも「病気ではない状態」を示すものではなく、病気があっても今の状態を維持すること（井上ら,2002）といわれているように、病気や障害を持ちながらも自分なりの健康な状態を保っていることを含んでいる。特に何らかの疾病や障害により要支援・要介護となった高齢

者は、そういった状態を維持して生活できることにかけては、えのない大切さを感じているのではないかと推察される。

高齢者の生活満足の要因として平穏無事な生活(北ら, 2002)があがっており、訪問看護を利用している高齢者の調査(工藤ら, 2008)では、「楽しみ」と「心身ともに安定した生活」の相互の関連を示唆している。これらの先行研究から示されたように、本研究からも高齢者にとっては、特別なことが起こらず自分なりに満足のいく平穏な日常が過ごせること、自分なりの健康状態が維持できることがとても大切なことであり、それを維持できている状態を「楽しみ」として捉えていると推測された。

また、本研究では【「介護保険サービスの利用を通して」の楽しみ】というカテゴリが見出されており、介護保険サービスを利用することを通して生じる人との交流などが、要支援・要介護高齢者にとって楽しみとして大きな役割を果たしていることが見出された。

『デイサービスに行くこと』そのものや『デイサービスで身体を動かすこと』が楽しみとしてあげられており、要支援・要介護高齢者の楽しみとして介護保険サービスが大きな役割を果たしていることがわかった。通所サービス利用者の調査(藤原ら, 2002)でも、利用目的は「機能維持・回復」「参加していることが楽しいから」と報告されている。またデイサービスでは利用者に合わせてケアの提供や内容の工夫に職員の努力を要する(出雲, 2001)と報告されている。そのような職員の日々の努力が高齢者に「楽しみ」として感じられることにつながっていると考えられる。介護保険サービスは食事や入浴介助などの日常生活支援を重要な役割としているが、本研究から介護保険サービスは要支援・要介護高齢者の日常生活を援助しつつ、楽しみも提供していると考えられた。

65歳以上の一人暮らし高齢者、特に男性の割合が増加する(内閣府, 2009)、また日常生活に心配事があり頼れる人がいない一人暮らし高齢者が増加傾向にある(内閣府, 2009)、要介護高齢者の人的ネットワークについて学歴が高いほど近隣からの訪問は少なく、男性の一人暮らしでは近隣とのネットワークが十分でない(白波瀬, 2005)との指摘がある。そのようなことから高齢者の背景によっては介護保険サービスが高齢者にとって唯一、人との交流を提供できる場、社会的な関係を築くことができる場となる可能性もある。要介護高齢者に楽しみを提供し、生活を支える介護保険サービスの意義は大きいと考える。

葛飾区と大館市の要支援・要介護高齢者の間で楽しみの内容に大きく異なるような傾向はみられなかった。

【「日常の中の出来事や暮らしそのもの」に関する楽

しみ】に含まれる『趣味を行うこと』や『外へ出かけること』については、葛飾区で趣味の内容や外出先として多様な記述がみられた。都市部は地方に比べて公共交通手段が発達しているために、自分で移動手段をもたない要介護高齢者でも外へ出かけやすいためではないかと考えられた。移動手段があることは、外出する意欲にもつながると考えられる。公共交通手段が乏しい地域においては、要介護高齢者の外出には移動手段の確保が欠かせない。そのような中で、介護保険サービスを通じて外出し、人と交流できることは、高齢者にとって大切な楽しみとなることが考えられる。

結 論

要支援・要介護高齢者はどのようなことに楽しみを感じているのか検討するために、東京都葛飾区と秋田県大館市・田代町で行ったアンケート調査の自由記述項目「この1年間で楽しかったこと」に回答の得られた758名(葛飾区469名, 大館市289名)の記述を分析した。その結果20のサブカテゴリからなる4つのカテゴリ【「家族との交流を通して」の楽しみ】【「友人との交流を通して」の楽しみ】【「介護保険サービスの利用を通して」の楽しみ】【「日常の中の出来事や暮らしそのもの」に関する楽しみ】が見出された。楽しみとして【「介護保険サービスの利用を通して」の楽しみ】が見出され、要支援・要介護高齢者の生活における介護保険サービスの役割の大きさが示唆された。

謝 辞

調査にご協力くださいました高齢者の皆様に心より感謝申し上げます。

なお、本研究報告は、平成14年～16年度文部科学省科学研究費補助金「介護体験の構造：在宅介護支援効果の最大化に関わる要因の探求」(研究代表者：高橋龍太郎)、同14～15年度厚生労働科学研究費補助金「要支援・要介護高齢者の在宅生活の限界点と家族の役割」(研究代表者：須田木綿子)の助成を受け、日米介護保険研究プロジェクトの一環として行った調査の、「この1年間で楽しかったこと」という調査項目を用いたものである。データの分析にあたりご指導いただきました日米介護保険研究会のメンバーに深謝します。

文 献

藤原瑞穂, 阿部和夫 (2002) : 在宅高齢障害者の通所サービス利用意義—A D L能力と罹病期間による検討—, 作業療法, 21 (3), 240 - 250

池田紀子, 小澤道子, 上田礼子 (1997) : 老年期の楽しみ, 保健の科学, **39** (4), 243 - 247

井上郁, 中山洋子 (2002) : 高齢者ケアにおける看護職の役割, 高木安雄, 高齢者ケアをどうするか, 中央法規出版, 東京, 86 - 88

井上勝也, 大川一郎, 荒木乳根子他 (2000) : 在宅での生活, 本山昭一, 高齢者の「こころ」事典, 中央法規出版, 東京, 292 - 293

出雲祐二 (2001) : 福祉サービス事業者に見られる苦情解決と第三者評価の方向性—利用者のアンケートからの提起—, 秋田桂城短期大学地域総合研究所研究所報, **4**, 35 - 57

菊池和美 (2009) : 健康な中高年者が自由な時間の楽しみとして行っている余暇活動, 老年社会科学, **31** (2), 173

金田すみれ, 奥山清美, 倉田美恵他 4 名 (2008) : アクティブシニアのライフスタイルの現状—その 4—岡山県笠岡諸

島・真鍋島の漁村地域の場合—, 福山市立女子短期大学研究教育公開センター年報, **5**, 65 - 71

北素子, 水野敏子, 曾田信子他 5 名 (2002) : 老年者における生活満足の構造—1 地域における生活満足度調査より—, 日本老年看護学会第 7 回学術集会抄録集, 65

工藤節美, 屋田みゆき, 木下結加里 (2008) : 在宅療養中に要介護高齢者の楽しみを構成する要素—訪問看護ステーションを利用している高齢者のインタビュー結果から—, 看護技術, **54** (8), 51 - 56

内閣府 (2009) : 高齢社会白書 (平成 21 年版), 東京

白波瀬佐和子 (2005) : 高齢期をひとりで暮らすということ—これからの社会保障制度をさぐる—, 社会保障研究, **41** (2), 111 - 121